



## 2 主な施策の取組状況

### 重点戦略1 明日へつなぐ



# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ①-1 新規就農者の育成

### ○ 就農指導協力員による技術支援

- 普及員指導員OB等による「就農指導協力員」を配置し、農外からの新規参入者等の定着や経営の早期安定に向けて支援を行っています。
- 令和3(2021)年度は、県内に6名の就農指導協力員を設置し、16名の新規参入者等へ支援を行いました。
- 栽培技術や経営など営農全般についての指導・助言は、月2回程度行い、今後も新規参入者等の早期安定に向けた取組を進めていきます。



就農指導協力員による指導の様子

(経営技術課)

### ○ スマート酪農牛舎を活用した技術者養成研修がスタート

- 畜産酪農研究センターに整備された「スマート酪農牛舎」を活用し、酪農家や酪農協職員等を対象とした研修を令和4(2022)年4月から開始します。
- 搾乳ロボット等のスマート酪農機械の取扱いやスマート酪農におけるデータの活用方法などについての研修を行います。
- 本研修により、スマート酪農機械をフル活用できる人材を育成し、省力化や生産性の向上を図ることににより、本県酪農の発展を図ります。



視察研修会の様子



餌寄せロボット

(畜産酪農研究センター)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ①-2 新規就農者の育成

### ○ いちご、にら新規就農研修制度による園芸産地を担う人材確保(上都賀地域)

- 平成28(2016)年11月、鹿沼市がいちご市を宣言し、市が主体で平成29(2017)年度に新規就農者支援対策協議会を設立し、研修生受け入れを開始しました。
- 現在、市や農業公社、JA、農業振興事務所等で構成された実務者会議を中心に具体的な推進を行っています。
- 令和3(2021)年度までに18名の研修生を受け入れ、既に10名が就農しています。



JA広報誌 9月号

(上都賀農業振興事務所)

### ○ ニューファーマーカレッジをオンラインで開催(下都賀地域)

- 新型コロナウイルス感染症の影響で様々な研修会が縮小・中止となる中、新規就農者を対象とした「ニューファーマーカレッジ」をオンラインで開催しました。
- 25名のニューファーマーの皆さんが、「病害虫」(10月)、「土壌肥料」(11月)をテーマとした講習を受講しました。
- 技術と経営についての知識の習得が得られたとの声も多く、オンライン開催ではありましたが、大変好評でした。



基本技術の説明



約半数は集合研修

(下都賀農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ①-3 新規就農者の育成

### ○ なし若手生産者の支援体制の確立(那須地域)

- JAなすの梨部会の就農5年未満の若手生産者や青年部員を対象として、栽培理論(座学)やせん定実習などの基礎セミナーを開催しました。
- セミナー参加者の各園地に老木樹の樹勢強化のための試験樹を設置しました。
- また、部会のベテラン生産者をアドバイザーとし、現地慣行せん定技術の実習を実施しました。
- LINEやクラウド生産履歴サービスの活用によるリモートも含めた技術指導、改植に向けた新技術導入支援体制確立に向けた試行も開始しています。



現地慣行技術のせん定実習

(那須農業振興事務所)



# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ②-1 未来へつなぐ広域営農の実現 ※トピックス(1)と関連

### ○ 農業法人等の雇用管理能力向上のための研修を実施

- 雇用を行う農業法人等を対象に、雇用管理能力向上のための研修を実施しました。
- 研修は労務や保険制度、人材教育、人事など、雇用管理に必要となる内容をテーマ別に学ぶことができます。
- 参加者からは、「雇用管理の重要性が分かった」、「現場で活かしたい」などの意見があり、今後も農業法人等の取組拡大に向けて支援していきます。



研修の様子

	テーマ
第1回	労働保険と社会保険
第2回	労務管理に必要な知識
第3回	コミュニケーションスキル
第4回	教育、マネジメント
第5回	人事制度

研修のテーマ

(経営技術課)

### ○ 中山間地域で農地利用最適化推進委員を中心とした農地集積(上都賀地域)

- 農地利用最適化推進委員が中心となり、農地バンクを活用した担い手への農地集積が実施されました。
- 現場の鹿沼市上永野地区は、沢沿いに農地がある中山間地域で、3地区合計29.4haの農地を集積しました。
- これをきっかけとして、今後は農業委員・推進委員が中心となり、水田農業の将来について地域の話合いを進める予定です。



農地集積に関する担い手の話合いの様子

(上都賀農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

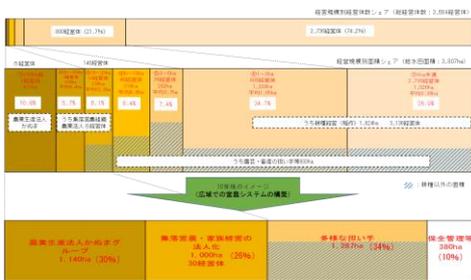
将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ②-2 未来へつなく広域営農の実現 ※トピックス(1)と関連

### ○ 広域営農システムの構築に向けた水田利用の将来像の検討(上都賀地域)

- 各市の水田台帳を活用し、管内(市全体及び重点推進地区※)の水田利用シェアを分析しました。
- また、各部担当者が隔週で集まり、分析データや現場の生の声などを参考に水田利用の将来像について検討しました。
- 今後、これらの資料を基に関係機関と連携しながら将来像の実現にむけ、具体的な取組を進めていきます。

※ 広域営農モデル地区及びその候補地区



水田利用状況と将来像 (鹿沼市)



将来像等の検討状況

(上都賀農業振興事務所)

### ○ 日光市の土地利用型農業の未来を考える意見交換会の開催(上都賀地域)

- 令和3(2021)年12月、塩野室・大沢地区の土地利用型農家8戸と関係機関(市、市公社、JA、上都賀農業振興事務所)で、土地利用型農業が持続的に維持・発展していくための施策等について意見交換しました。
- 規模拡大時の課題である畦畔管理・水管理や、日光市の水田利用状況及び10年後の構想を基に今後の農業経営のあり方について話し合い、現状の課題と今後取り組むべき方向性について共通認識が図られました。



意見交換会の様子

(上都賀農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ②-3 未来へつなぐ広域営農の実現 ※トピックス(1)と関連

### ○ 地域農業を支える仕組みづくり(集落営農組織の連携・合併推進)(芳賀地域)

- 芳賀農業振興事務所では、将来に渡って持続的に地域農業を支える仕組みづくりに向け、モデル地区を設置し、普及指導員がコーディネーターとなって、推進活動を行っています。
- 市貝町小貝北部地区では、3つの集落営農法人の連携・合併に向けて、益子町田野地区では、5つの集落営農組織の連携に向けてそれぞれ具体的な話し合いを進めています。



市貝町の話し合い



益子町の話し合い

(芳賀農業振興事務所)

### ○ 土地利用型経営体ワークショップの開催(塩谷南那須地域)

- 土地利用型及び地域農業の課題を共有化し課題を解決するため、土地利用型経営体によるワークショップを開催しました。
- 宇都宮大学秋山教授をコーディネーターとして、経営力強化と地域営農の新たな仕組みづくりをテーマに、中心的土地利用型経営者12名が意見交換しました。
- 地域農業を担う土地利用型経営の抱える課題が共有化され、課題解決に向けた経営改善の方向性やネットワークづくり等の重要性が議論されました。



経営・地域農業の課題について意見交換

(塩谷南那須農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ②-4 未来へつなぐ広域営農の実現 ※トピックス(1)と関連

### ○ 実質化された人・農地プランの実行等に向けた地域の話合いを開始(那須地域)

- 大田原市、那須塩原市、那須町、各市町農業委員会、各市町農業公社及びJAなすの、那須農業振興事務所により、令和3(2021)年7月に設定されたモデル区域(市町各1カ所)の支援を開始しました。
- 広域営農システム、多面的機能支払交付金の取組とも連携しながら、モデル区域の営農等の現状把握に基づき、将来の農地利用の明確化に向けた集落の話合いを支援しています。



実質化された人・農地プランの実行等に向けた話合い

(那須農業振興事務所)



# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ③-1 他業種との相互連携の強化

### ○ ユニバーサル農業部門別検討会の開催

- 地域における多様なユニバーサル農業の展開に向け、市町・関係団体との連携強化や推進方策の検討を目的に、「ユニバーサル農業部門別検討会」を開催しました。
- 福祉部門が農業に参入する場合の条件や指導方法についての議論や、福祉が耕作放棄地の解消に取り組み、地域農業の活性化につなげている事例の紹介などを通して、関係者が推進に向けた支援方策等の共通理解を深めました。



第2回ユニバーサル農業部門別検討会（オンライン併用開催）

(農政課)

### ○ 農福連携による露地野菜の生産拡大(河内地域)

- 令和3(2021)年12月、農業者や福祉関係者を参集し「露地野菜農福連携実践農場見学会」を開催しました。
- にんじんを生産拡大した黒崎農園と連携先の福祉施設から連携の工夫やメリットについて報告を受けました。
- 河内地域では、さつまいもでも農福連携による生産拡大の動きがあるため、今後も地域内の取り組みを支援していきます。



にんじん収穫作業



さつまいも除草作業

(河内農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ③-2 他業種との相互連携の強化

### ○ 宇都宮市との連携による農福マッチング(河内地域)

- 河内農業振興事務所は、農福連携により福祉施設の利用者の工賃向上を図るため、特にB型施設とのマッチングを推進しています。
- 令和3(2021)年度は、宇都宮市の保健福祉部との連携により、初めてB型施設とのマッチングを支援しました。
- 重いコンテナを運ぶ力仕事も包丁を扱う調整作業も期待以上でした。



コンテナの運搬作業



包丁による調整作業

(河内農業振興事務所)

### ○ 農福連携マーク♡(河内地域)

- 農福連携を見える化するため、「農福連携マーク」を作成しました。
- 野菜などの農産物の包装や農産加工品にこのマークを表示(シール又は印刷)し、消費者が農福連携の取組を応援する機運を高めることが狙いです。
- このマークは河内農業振興事務所のホームページからダウンロードできます。



福から芽が出る



農から芽が出る

(河内農業振興事務所)

# (1) 地域農業の持続的な発展

将来を見据えた担い手の育成や集落営農組織の活躍など、地域を支える仕組みづくりを支援しています。

## ③-3 他業種との相互連携の強化

### ○ NPO法人あがた農楽園による農福連携の取組支援(安足地域)

- 地域農業の維持、地域高齢者の福祉増進、障害者の就労場の確保に向け、令和3(2021)年1月に「NPO法人あがた農楽園」が設立されました。
- 遊休農地を活用してジャガイモ、サツマイモ、スナップエンドウを栽培し、社会福祉法人渡良瀬会や地域の高齢者に働く場を提供しています。
- 障害者等の活躍の場を拡大する取組を各種事業の活用などで支援します。



さつまいも苗植え



利用者の絵を活用した箱

(安足農業振興事務所)



## (2) 意欲ある人材の参入促進

### ①-1 将来を担う新規就農希望者の確保

#### ○ 農業大学校「いちご学科」を創設

- 農業大学校では令和3(2021)年4月に全国初となる「いちご学科」を創設し、第一期生として9名が入学しました。
- 第一期生は、年齢も10代～40代と幅広ですが、互いに切磋琢磨しながら、経営者を目指して日々熱心に学んでいます。
- 産地や関係機関等と連携した実践教育と並行しながら、就農準備を進めていきます。



県内トップレベル経営者を訪問



初収穫に笑顔を見せる第一期生

(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

#### ○ 海道町「いちご団地」における新規就農者支援の取組(河内地域)

- 宇都宮市海道町において、令和5(2023)年度に「いちご団地」を創設します。
- 県営農地整備事業実施区域のうち約7.4haを14名の新規就農希望者に貸し出します(R5:3.8ha 7名、R6:3.6ha 7名)。
- 河内農業振興事務所では、海道路地改良区や関係機関とともに「いちご団地経営支援チーム」を発足し、就農から経営安定までのサポートを行っています。



就農希望者に向けた説明会



募集チラシ

(河内農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

### ①-2 将来を担う新規就農希望者の確保

#### ○ いちご、にら栽培体験会の開催(上都賀地域)

- いちご、にらの特性を知ってもらうため、定植や収穫調整作業、先輩研修生との意見交換等を行う栽培体験会を開催しました。
- 令和3(2021)年度に4回開催した結果、県内外から延べ29名が参加しました。
- 引き続き、いちご、にら新規就農研修制度の認知度向上を図るため、研修生や栽培体験会の募集をHPや広報誌等でPRに取り組みます。



いちご定植体験



にら収穫調整体験

(上都賀農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

#### ○ 日本一のいちご産地の新規就農者の確保・育成(芳賀地域)

- いちごの担い手を確保するため、新規就農塾推進協議会への支援により「新規就農塾」の充実を図るとともに、就農希望者を対象とした「現地見学会」の実施や事務所HP「芳賀地域で農業を始める方を応援」の開設などにより、就農情報の発信を強化しました。
- また、新規就農者に対しては、重点的な個別指導やニューファーマーカレッジ活動を通じた指導により技術力・経営力の向上を支援しています。



いちご現地見学会



ニューファーマーカレッジ開講式

(芳賀農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

### ①-3 将来を担う新規就農希望者の確保

#### ○ 南那須農業アカデミーの開講(塩谷南那須地域)

- 南那須地域新規就農者支援対策協議会は、地域の総合力で新規就農希望者を一貫支援するため、令和3年度から「南那須農業アカデミー」を開講しました。
- なしでは、県内初のマイスターによる現場での実践研修のほか、機械操作、マーケティングや簿記等幅広い経営知識の習得、就農・経営継承の支援を実施し、安心して就農できる環境が整っています。



パンフレットのほか、HPに研修情報を掲載しています



マイスターとの実践研修

(塩谷南那須農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

#### ○ オンライン就農相談の開始(塩谷南那須地域)

- 遠方の方や平日来所できない方に対して、オンライン会議ツールを活用した就農相談の対応を始めました。
- 仕事の都合でなかなか来所できない方が休憩時間などを利用しての参加や就農希望者本人以外の家族も気軽に参加できるなど、来所しての相談とは違った利点をもたらしています。



相談者と顔を合わせて説明できる安心感があります



県HPに相談方法を掲載しました

(塩谷南那須農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

### ①-4 将来を担う新規就農希望者の確保

#### ○ とちぎ農業マイスターを活用した新規就農者の育成(安足地域)

- 安足地域では、いちご産地の更なる発展に向け、いちごのとちぎ農業マイスターを足利市で7名、佐野市で5名設置し、いちご新規就農者の育成を図っています。
- 令和3年度は、足利市と佐野市の新規就農塾において、それぞれ1名と2名が、いちごのとちぎ農業マイスターのもとで研修を行い、令和4年度の就農を目指しています。



農業マイスターによる新規就農者への指導

(安足農業振興事務所)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

#### ○ 中学生に対する農業理解促進の取組(安足地域)

- 中学校での職業教育の時間において、農家、農業振興事務所、農業試験場から、これからの農業や職業観などの講話を行い、農業への理解促進を図りました。
- 特に、農家によるICTを活用したスマート農業の取組や農業試験場の研究内容には、生徒も関心を寄せ、農業のイメージが変わったようです。



農家による就農の経緯やスマート農業の講話



農業試験場職員による農業技術開発の講話

(安足農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

### ②-1 女性が活躍する環境づくり

#### ○ とちぎびいなすLaboの設置

- 県では、女性農業者が集う新たな交流の場として、「とちぎびいなすLabo」を設置しました。
- また、農業経営に関する知識やスキルを習得するセミナーの開催、グループ活動の支援などを行っています。
- 生き生きと活躍する女性農業者の姿をホームページ等で発信し、新たに農業を始めたいと考える女性の増加を図ります。



交流会の様子



農業の魅力発信

(経営技術課)

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

#### ○ にらを生産する女性を対象とした勉強会の実施(河内地域)

- JAうつのみやにら専門部「にら女性勉強会」は、女性生産者や女性パートナーが集まって技術向上や経営改善を目指す、「参画型」が特徴の会です。
- にら袋詰め時の「脱気作業」がテーマの回では、動画学習後に実際にメンバーがトライするなど、大いに盛り上がりました。
- 勉強会をきっかけに女性が一步前に踏み出し、産地全体の活性化が図られることが期待されます。



動画学習の様子



脱気実習の様子

(河内農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

### ②-2 女性が活躍する環境づくり

#### ○ かみつが農業女子の活動がスタート(上都賀地域)

- 令和3(2021)年12月、上都賀地域の意欲ある女性農業者6名によるネットワーク活動「かみつが農業女子」がスタートしました。
- 緩やかなつながりの中で、各々の課題(販路の開拓、雇用管理、6次産業化、生活面の悩み等)や目標をメンバーと共有し、その課題解決や目標達成に向けた活動を開始しました。



交流会



ランチミーティング

(上都賀農業振興事務所)

#### ○ 農村女性のつどいを開催(下都賀地域)

- 令和3(2021)年7月、「農業で女性が新しいことを始めるために」をテーマとした”輝く農村女性のつどい”を開催しました。
- いちご農家による洋菓子店や直売所の開設、新規就農時の胸の内、新たな作物栽培へのチャレンジなどについて、講演や事例発表が行われました。
- つどいに参加した約50名の女性農業者からの質問も多く、活発な意見交換も行われたため、今後も新たな取組を支援していきます。



女性起業の説明



関心の高い講演会

(下都賀農業振興事務所)

## (2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

### ②-3 女性が活躍する環境づくり

#### ○ 塩南女子会がマルシェに出店(塩谷南那須地域)

- ・ 塩南女子会は、県全域の女子会に声をかけ、矢板市内で開催された「58口ハスマルシェ」に出店しました。
- ・ 実際にマルシェに参加することでグループ参加の課題が多数発見できました。
- ・ 夢を実現するため、今後の発展活動(生産物共同販売、加工品の生産・販売)に前進しています。



研修会後やSNSを利用してマルシェ打合せを実施



青空の下、58口ハスマルシェに出店、直に消費者と交流

(塩谷南那須農業振興事務所)



## (2) 意欲ある人材の参入促進

新規参入者や女性など、産地が主体となって栃木で農業に取り組む多様な人材の確保・育成を進めています。

### ③-1 多様な人材の確保・育成

#### ○ 女性向け農業機械の研修会の開催

- 今日の農業は、農作業の機械化などが進み、男女が分け隔てなく働くことができる職業となっています。
- 女性農業者を対象に、スマート農業を経営に取り入れられるよう、研修会を実施しました。
- 研修では、スマート農業に関する講義の他、ドローン操作やアシストスーツによる軽労化、直進アシスト付きトラクター試乗等、農業機械の体験を行い、農作業の機械化について理解が深まりました。



アシストスーツ体験



直進アシスト付きトラクター試乗

(経営技術課)

#### ○ 海道地区ほ場整備工事着手(河内地域)

- 令和3(2021)年度から65haの区画整理が始まり、これを契機に集落営農組織は法人化することになりました。水田には自動給水栓を採用するなど、水稻の省力化生産が図られます。
- また、区画の一部を「いちご団地」として整備し、地区外からいちごの新規就農者を呼び込むなど新しい営農形態を目指します。



整備前の圃場



起工式

(河内農業振興事務所)